## 稲 毛 陸 橋

こんにちは。ツッコマー・ゆっきーです。千葉市内にある地図ラー的な萌えポイントを、熱く ツッコミを入れながら楽しく解説していくシリーズです。

いま私は幕張メッセでトランポリン大統領との会談を終え、国道 14 号(千葉街道)、今では国道 357 号(湾岸道路)との重複区域を千葉市街に向かって走っている。もちろん地図界では最弱の脚力を誇る私は、走ると言ってもクルマでの移動(笑)。

東京都中央区から千葉市中央区広小路交差点に至る国道 14 号と、神奈川県横須賀市から千葉県富津市に至る国道 357 号は、この辺りでは同じ道路になっていて「重複区間」と言われている。 数年前からここの道路表記がちゃっかり変更になっていて、よくわからないうちに道路名が併記される事態になっている。

でも、私たち地元民の間ではここはずっと「14号」であって、新参者の357号は3桁だし語呂が悪い。246に1ずつ加えた数字というのも、青山通りのおこぼれっぽくて情けない。また、私の友人が勤務している「ルート14」という会社があるんだけど、ここを「ルートさんごなな」にするのも厳しいだろう、超カッコ悪いし。なんとなくやられた感になってしまう。

この道路、千葉西警察から千葉市街の部分は上りと下りとで少しだけルートが違う。この地区の埋め立てが始まる前は、この道路は海岸線を走っていたんだけど、上りは埋め立て後に新たに作られた道路、下りはかつての道路を整備したものだ。そのため、下りの方がやや高くなっていたり、少し蛇行している部分もある。そしてこの下り車線が稲毛区・中央区と美浜区との区界になっている。こういうことは言われないと気づかないことなんだけど、これを読んだアナタは次回ちゃんと見ておくよーに!

その下り車線を走って稲毛・浅間神社を過ぎると間もなく、とてつもない高さの陸橋をくぐる。 稲毛陸橋だ。はるか上空を走る車道と、頭上すぐのところにある歩道の二層構造になった迫力あ る名物陸橋だ。

この歩道橋はもちろん観光地ではないし、ふだんここを通る人もあまり気にしたことなどないだろう。たしかに特別に見栄えのするものではない。しかし、こういう琴線に触れるところを発見すると、ツッコマー根性が目を覚まし、なんでそんなに高いんやねん!もっと低くてもええやろ!となってしまうのだ(笑)。



(YAHOO!地図)

でも、この稲毛陸橋、実はタダモノではない。地図地理地形好きなら必ずハマる、知ってしまったら自分の目で確かめずにはいられなくなるエキサイティングスポットなのだ。ただ、稲毛駅からも京成稲毛駅からも稲毛海岸駅からも遠く、駐車場も少ないし、バスしかないこのクソ不便な場所に行くのは嫌だと思う人は、この後は読み飛ばした方がいいかもしれない(笑)。

この写真は稲毛海岸が埋め立てられる前の姿だ。現在の国道 14 号は海岸沿い、目の前は遠浅の海というところを走っている。ここの遠浅は半端じゃない。日本初の民間飛行場の滑走路があった、砂の締まった極上の遠浅だったのだ。



大正時代の稲毛海岸 (千葉市郷土博物館)



昭和25年の稲毛海岸(千葉市郷土博物館)

そしていま、稲毛陸橋がある場所を見てみると、ハッキリと切り立った崖になっているのがわかる。そう、ここは下総台地のいちばん端にあたる、縄文海進のときも海に沈まなかった場所だ。 房総半島に広がる下総台地は、ここ千葉市で海に落ちていく。いま低地になっているところは海の中だった場所で、小高くなっているところまでが陸地だった。

稲毛陸橋の歩道部分に行くには、垂直に近い角度を横向きの階段で登っていく。かなり急峻な 崖になっているということは、縄文海進が終わって低地が陸地化してきてもずっと海の浸食を受 けてきた証拠だ。遠浅の穏やかな海とはいえ、波を受け続ければ海食崖は切り立ってくる。下総 台地は地盤が柔らかいこともあって、こういうソソル地形ができたんだろう。ありがたや~。

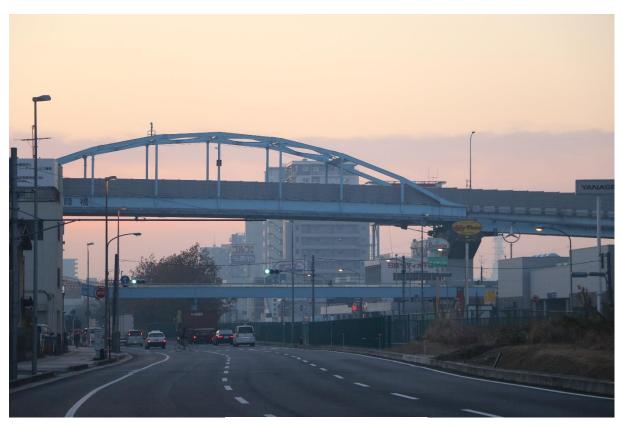
さて、この稲毛陸橋は 1970 年代におこなわれた稲毛海岸の埋め立てにより誕生した新たな陸地と、海食崖の台地とを結ぶ架け橋として作られた。稲毛陸橋を走る道路はそのままストレートに JR 稲毛駅に至るので、この高さゆえ工事費もかかっただろうけど、利便性を考えてこの場所が選ばれたんだろう。さすがのツッコマー・ゆっきーもここは文句なし。

この台地上は大正時代から別荘地や高級住宅地として発展してきた場所で、少し歩いてみるとゆったりした一戸建てが連なっている。電気ブランでお馴染みの神谷バーの創始者・神谷伝兵衛氏もこの近くにどーんと別荘を構えていて、今でも千葉市民ギャラリー・いなげの敷地内に、風格ある建物が残されている。

私はまだスッピン駆け出しカメラマンだけど、一眼レフを抱えて写真を撮りに行く。このフォトジェニック稲毛陸橋にはよく撮影に行っているんだけど、オススメ時間帯は遠目に見る場合は朝日と夕日、真下から見上げるにはお昼が良い。次の写真は夜明けと同時に撮影したものだけど、赤味がかかった空に青い陸橋がボンヤリ見えるのが素敵だ。ユーミンを聴きながら楽しみたい景

色と言っておこう。

朝一とか夕方にここを通りかかったら、ぜひシャッターを押していただければと思う。インスタ映えはしないけれど、雰囲気の良い写真になること間違いなし!



夜明けの稲毛陸橋はお気に入り!



台地から埋立地方面を見る



切り立った海食崖



旧神谷伝兵衛別荘



みんなで上るの図

ツッコミ担当:田中幸穂

文章・写真担当:小川順一